

Tajima floor coloring system Eternal Palettes

Feature Article

大学特集 Case1-2

5
vol.

出会い、語り、そして旅立つ。
キャンパスの思い出は一生の宝物。

大切な時を過ごす教室やカフェ。
まるで自分の家にいるような
新しいキャンパスが生まれました。





【14Fラウンジ】カーペットタイル/タピス ワッフルツイード

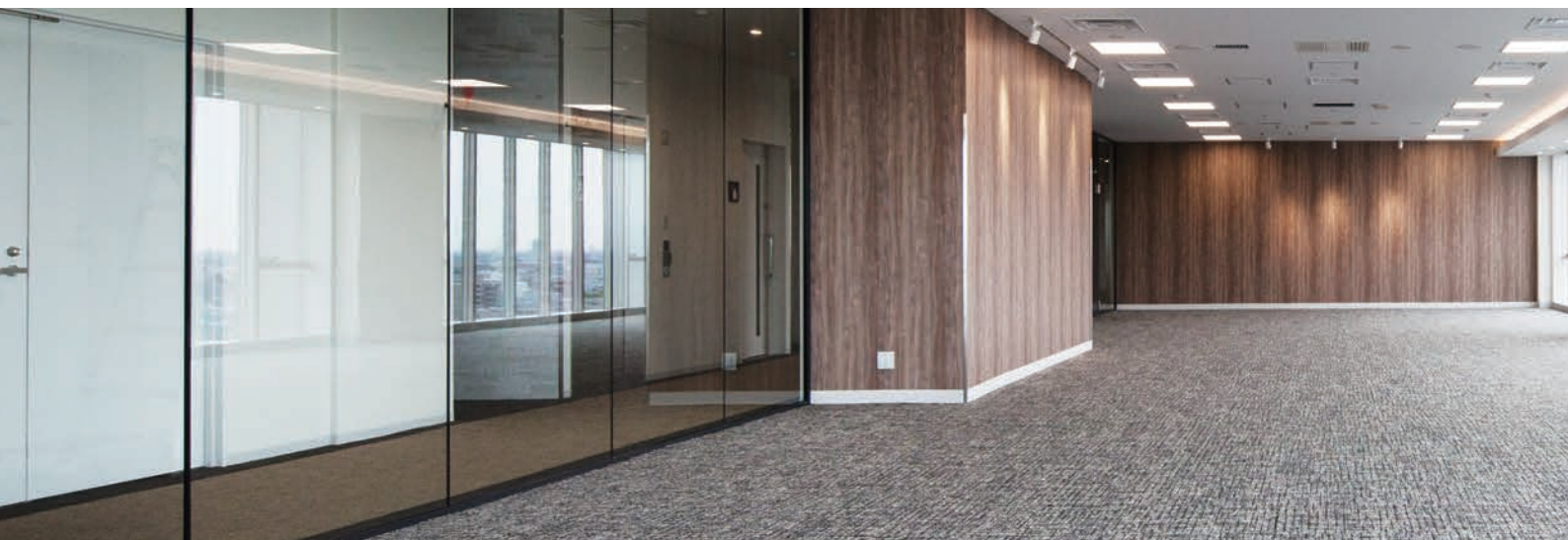




亜細亜大にそびえる新しいランドマーク University Case 01

亜細亜大学 新1号館

設計・施工 東急建設株式会社





武蔵野の面影を 樹木のモチーフを通して室内に残す

中央線の車窓からも望むことができる、亜細亜大学の新しいランドマーク“新1号館”。大学運営の効率化と研究促進を目指し、今まで分散していた本部機能や、研究室を14階建ての高層建築にまとめました。

教員同士のコミュニケーションが活発になり研究が進めやすい、学生が行う様々な手続きが1箇所ですむようになった、と早くもキャンパスライフの中核を担うようになった新1号館。設計にあたりモチーフとして掲げられたのは“樹木”。武蔵野の面影を色濃く残す構内には、多くの記念樹が植えられています。樹木の伐採や枝の



[1Fエントランス] 明るい色とリズム感あるパターン貼りで学生を迎える。カーペットタイル/LA500、タビス プレシャストーン

剪定を最小限に抑えながら、新1号館の建設がすすめられました。

樹木を慈しむ想いは、彩度を落とし落ち着いた色調の外観や、木目、ベージュ、ブラウン、グレーを中心に構成した内装にも表れています。とはいうものの、学生が利用するエリアには活力を与えるため、ビビッドな黄緑、オレンジ、青といった差し色も採用。

「ベージュ、グレーばかりではあまりにも

落ち着きすぎるので、効果的な差し色を入れて変化を持たせました」と語るのは、カラースキームの作成にも参加した、亜細亜大学の小木曾さん。研究室フロアでは、エレベータホールに3つのフロアデザインを設定。自分の階が直感的に判るようにするなど、機能的なデザインも取り入れました。

230の研究室と8つの会議室。200名の教員と120名のスタッフが運営に当たる新1号館。

冬季には富士山を望むことができる地上館50mのスカイラウンジ。研究の合間や、友人との語らいの場を演出するのは、高級感あふれるワッフルツイードのカーペットタイル。

新しく生まれた亜細亜大学の拠点から、多くの亜大生が世界へ羽ばたくことでしょう。



[1Fカウンター通路]カーペットタイル/LA500、タビス プレシャスストーン



[1F講師控室]カーペットタイル/タビス ファイン



【2F階段、廊下】1Fと対となる、落ち着いた色のパターン貼り。
カーペットタイル/LA500、タピス ミナモ



【1F事務室】窓の外の樹木は建て替えの際に撤去せず、大事に残したもの。
カーペットタイル/LA500 6





14 / 13





1



2



3



- 1.2. [研究室] ドア上の窓が外とのつながりを産む。
壁一面の本棚は、講師たちの研究活動に配慮されたもの。
ビニル床タイル/マテイル ミックスセラ
3. [2Fミーティングルーム] カーペットタイル/タピス ミナモ



[[14Fラウンジ] カーペットタイル/タビスワップソリッド



学校法人 亜細亜学園
1号館

所在地：東京都武蔵野市境5-8
設計：東急建設 株式会社
施工：東急建設 株式会社
構造：RC造(基礎免震)14階
延床面積：14,474.17m²



University Case 02

学生のための“明るく、居心地のよい学生食堂”

亜細亜大学 ASIA PLAZA - 学生食堂 -

設計 東急建設 株式会社

施工 東急建設 株式会社

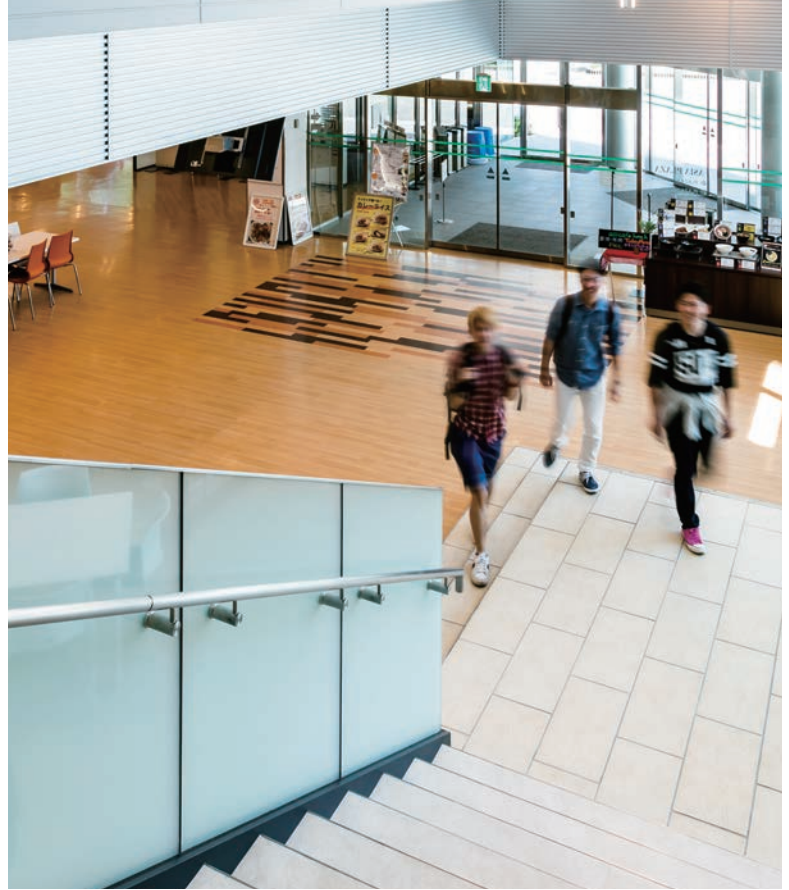
武蔵野の面影を残す住宅街の一角に建つ、国際色豊かな亜細亜大学。多くのプロ野球選手を生んだ硬式野球部の活躍もあり、知名度は全国区。2016年には創立75周年を迎え、学生、教職員のアメニティ向上を目的として、武蔵野キャンパスの全面的なリニューアルが計画されました。

早期から進められたのが食堂棟の改築。キャンパス周辺に飲食店が少ないため、学食の利用は必須。座席数の確保と快適性の向上は急務でした。

2015年春、亜大生の交流拠点「ASIA PLAZA」が完成。1階は“カジュアル&クイック”。早く食事を済ませたい学生のために、レイアウト・席数は効率重視。メニューも丼物が中心に。2階は、おしゃべりをしながらみんなと語りあえる“ラウンジ&ダイニング”。床を彩る木目のヘリンボーンが落ち着きと重厚感を醸します。3階は、貸出用のパソコンを常備しコンビニも併設。レポートを作成する亜大生の姿も見られます。一転して、4階は式典



【1F食堂】ピニル床タイル/ウッドライン



【1Fカフェ】学生が一人でも過ごせる空間づくりに配慮した。ピニル床タイル/ウッドライン

などを行うレセプションルーム。可動間仕切りを収納すると500人の立席パーティー会場に早変わり。

内装を担当した管財課の小木曾さんは、「最近の学生さんは、ひとりの空間を欲しがりますが、モノで区切ってしまうと、せっかくの開放感が台無しです。テーブルや椅子、床の色・パターンなどを場所ごとに変えることで、緩やかに空間を仕切りました。」とバラエティに富んだ仕器の秘密を解説。







[3F食堂]ビニル床タイル/ウッドライン

学生と地域に愛される学生食堂「アジプラ」

ASIA PLAZAの評判について小木曾さんに何うと、「アジプラという愛称が飛び交うなど、すでにキャンパスの核になっているようです。美味しくなった、という声も聞きますが…実は同じ業者さんなのです。」と思わぬ効果も。

「亜大生以外でも利用できますか?というお問い合わせもいただきます。もちろん大歓迎です。よく近所のママさんたちが、お子さんを連れてランチをしている姿をみかけますよ」と、ご近所さんの評判も上々。アジプラの波動は、やがて大きな輪を生むことでしょう。

1.2.[2F食堂]緑が臨める心地よいカウンター。
ヘリンボーン貼りがよく合う。
ビニル床タイル/ウッドライン

学校法人 亜細亜学園
ASIA PLAZA

所在地：東京都武蔵野市境5-8
設計：東急建設 株式会社
施工：東急建設 株式会社
構造：S+SRC造4階
延床面積：5,412.32m²



学校法人 亜細亜学園

小木曾恭子(おぎそきょうこ)

平成3年より亜細亜大学事務職員として勤務。現在、財務部管財課にて建築業務に携わる。

Tajima floor coloring system Eternal Palettes

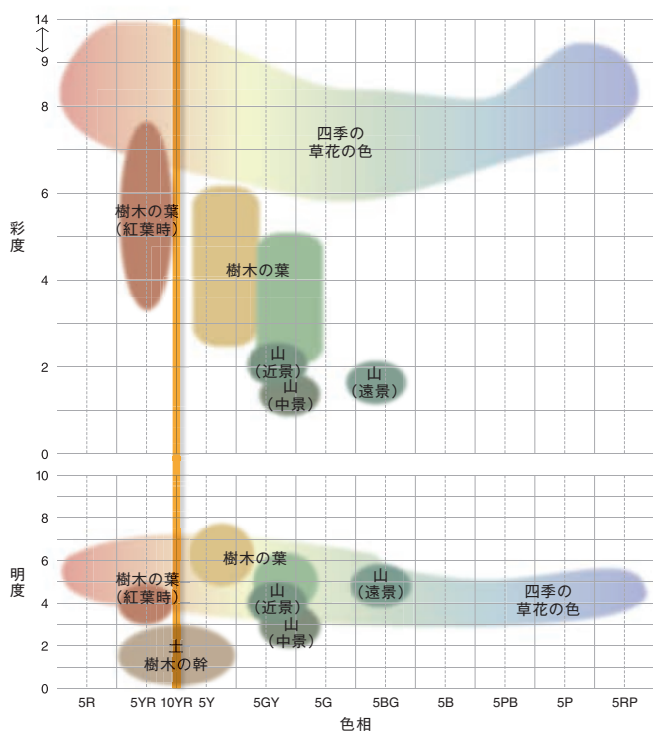
田島ルーフィングでは床材の色構成を構築する上で、「空間の色彩的調和」をつくることを目的とした「エターナル・パレット」という概念を用いています。

土や砂、樹木の幹といったアースカラーを始めとし、建築物などの都市景観に見られる多くの色を「マンセル表色系」を用いて体系化。それらを床材のカラーに反映させることにより「空間の色彩的調和」をつくるロングライフデザイン商品を提案します。

エターナル・パレットは、自然やその土地で長く育まれてきた景観の中から抽出した色で構成されています。

自然界にある基調色

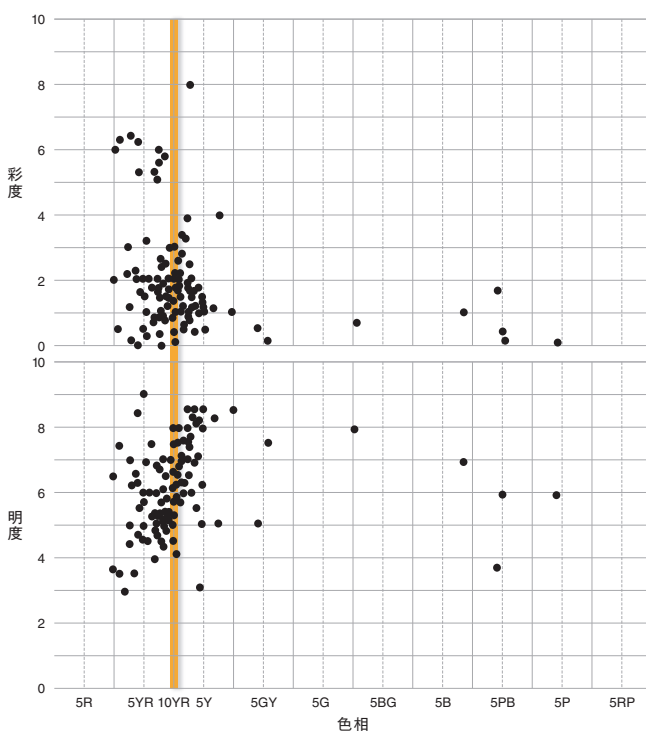
[図1]は季節によって変化する自然景観の色彩を表したものです。樹木の緑や草花の色には大きな変化がみられますが、その一方で、土や砂、樹木の幹などの変化の少ない色は、10YR系を中心とした色相の色範囲にまとまっています。これらの色は自然景観の中で大きな面積を占め、四季折々に変化を見せる樹木の緑や草花の色彩を引き立てる、自然界の基調色といえます。



[図1] 四季により移り変わる自然景観色

都市の中にも多くある色彩

都市の中にある建築の外装色を見ると、自然界の土や砂や石の色彩分布と同様に10YR系周辺の色相範囲に収まっています[図2]。それは、石や土、砂、木は古くから建物の素材として用いられ建築物の色彩の中心色相として受け継がれてきたからといえます。新しい建材が次々と作りだされる今も、自然素材と同じ色彩が広く使われているのです。



[図2] 都市部の建築外装色データ分析例

出典：10YR CLUB / ©CLIMAT

Cover photo 亜細亜大学 新1号館14Fラウンジ photo by Yoshiyuki Naruta, Toru Sasaki (P1下, P4上, P5上)